

蒲生干潟周辺の塩分濃度③

■蒲生干潟周辺の塩分濃度の測定を行った。



Fig.1 採集箇所 (赤線は、2016.3.8にトレースした線)

地点	塩分濃度(%)		
	1回目	2回目	平均
St.1	2.0	1.6	1.8
St.2	0.1	0.0	0.1
St.3	0.9	0.9	0.9
St.4	1.7	1.9	1.8
St.5	2.2	2.5	2.4
St.6	2.4	2.5	2.5
St.7	2.7	3.0	2.9
St.8	3.3	3.3	3.3
St.9	3.2	3.1	3.2
St.10	3.2	3.2	3.2
St.11	2.9	3.2	3.1

Table.1 各地点の塩分濃度 (採集は表層のみ)



Fig.2 東側の導流堤通水部から流入しているようす

蒲生調査レポートNo107の調査と同日同時間に、2月の調査に引き続き、蒲生干潟周辺の塩分濃度を測定した。採水は、前回同様、表層部からスポイトをもちいて行い、濃度の測定は、簡易海水濃度計（アタゴ社製PAL-06S）を使用し、採水地点は、Fig.1に示したとおり、11カ所について測定した。

測定は、13:30から15:00の時間帯に実施した。この日の満潮は15:00だったので、砂が堆積しているため流入していなかった東側の導流堤通水部（Fig.1のSt.10付近）で、川側から潟湖側に河水が流入しはじめていたようすを観察することができた（Fig.2）。また、潟湖奥のSt.1～3の塩分濃度は、前回（St.1：2.3%、St.2：0.4%、St.3：1.5%）の値より、下回っていることが分かった。当日は未明まで降水があり、この影響を受けているのではないかと考えられる。また、この降水により、七北田川の水量も変化しており、干潮時に塩分濃度の低い河水が流入している可能性があると考えられる。

(花田 義輝)